

幸田町の安全・安心を守る

最新鋭 はしご車導入



東海3県で初
国内10台のみ!



幸田町に新しい消防はしご車が導入されました。国内にわずか10台、東海3県では初の導入となる最新鋭の消防はしご車です。
全長10・18メートル、全幅2・49メートル、総重量16トン、6人乗り、はしごは最大30・5メートル伸ばすことが可能なこの消防はしご車、最新鋭のその秘密とは…

消防署員に話を伺いました！



大きなポイントは「コンパクトです！」

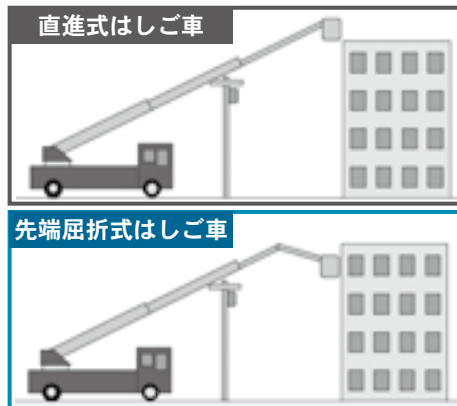
なるせ 成瀬 ゆたか 穰 さん

新しいはしご車の特徴

- 1 はしごの先端が屈折し、伸びること。
- 2 車体を支えるジャッキの高さが低いこと。
- 3 従来は「ジャイロ」というものではしごの水平を保っていたが、今回は油圧シリンダーで水平を矯正できること。

1 はしごの先端が屈折して伸びることによって、今まで障害があると近づけなかった場所に簡単にたどり着け、救助や消火活動がスムーズになります。

また、バスケットの中に乗車するときなど、今までは車体の上から降り降りしていたのですが、屈折することで地上3センチ程度までバスケットを下げる事ができるので、救助者を安全に地上に降ろすことができます。



防火対象物別（5階以上）

階	棟数	事業所
5F	12	ホテル1・共同住宅5・倉庫1・事務所1・特定複合用途3・非特定複合用途1
6F	2	共同住宅1・事務所1
7F	3	ホテル1・共同住宅2
8F	3	ホテル1・工場2
9F	1	特定複合用途1
10F	2	共同住宅2
11F	2	共同住宅2
合計	25	

2 活動時の車体を支えるジャッキの高さが従来のものよりかなり低いです。これは車体のさらなる安定性の確保が期待でき、「またげる程度の高さ」なので、隊員の活動範囲が車両周り360度に広がります。

また、従来の車両ではできなかった「ジャッキを横に伸ばさずに真下に下ろす」ことも可能となり、車幅程度しかない狭い現場にも対応できます。この車両はジャッキさえ降ろすことができればはしごの起動はもちろんのこと、前後の左右30度ずつの全伸長も可能となった点が新しいです。狭いスペースで大きな作業範囲を確保することができます。



3 従来のものにも強制的に水平を確保するためのジャイロ装置はあったのですが、傾きが7度を越えるとそれ以上の水平矯正ができず、また起動自体にも規制がかかり、動かすことができない性能でした。今回の車両は油圧シリンダー装置で10度の傾きまで対応でき、またその傾きを越えたとしても、規制で動かせなくなるといったことはなくなりました。一刻を争う現場活動での可能性を広げてくれています。



そのほか、はしごの動きそのものにメモリー機能があり、救助の際など同じ箇所へ何度も接近が必要な場合は再度操作する必要がなく、最短时间内での作業を可能としています。バスケットの先端には小型カメラを搭載し、地上で活動する隊員に現場の状況をカラーで鮮明に伝えることができます。車外のサーチライトや車内の電灯にもLEDが使用され、明るさを十分に確保しながらも消費電力を抑えることができます。

このように従来のものよりも大幅に機能がアップし、消火活動や救助活動の可能性を広げられる最新鋭の消防はしご車。その姿はまるで「用心棒」のような何とも勇ましい姿で幸田町の安全・安心を今日も見守っています。

問合せ 消防署 ☎633・0119